

## 城北ワンド群周辺の環境管理と外来魚駆除(第2報)

佐藤寛容・山之上祐司・都藤雄大・栗田雅之・畑中茂雄・林将孝・綾 史郎（大阪工業大学水圏環境研究室）  
 高田昌彦（琵琶湖を戻す会）、河合典彦（大阪市立大桐中学校）  
 内藤 馨・上原一彦（大阪府水生生物センター）、森川一郎（淀川河川事務所）、横田寿男（近畿地方環境事務所）

**背景・目的：**淀川下流左岸城北ワンド群周辺では 2006 年春にイタセンパラ仔稚魚が確認されなくなって以降、外来魚対策が本格化した。主要な対策としては外来魚が生息しにくい水環境を造ること、および生息する外来魚を駆除することの2つが行われている。本発表では 2012 年 4 月から 12 月までに国土交通省淀川河川事務所、大阪府立水生生物センター、大阪工大、淀川水系イタセンパラ保全ネットワーク等により城北ワンドで行なわれてきた外来魚駆除の内容とその成果、および外来魚が生息しにくい水環境として造られた新型ワンドの地引網による捕獲調査の結果を報告する。

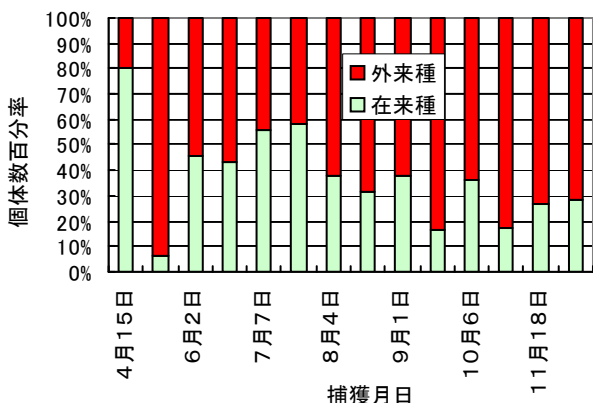
**外来魚の生息しにくい水域の創造：**2006 年以降城北ワンド群周辺で行われた、直接／間接に外来種の生息しにくい水域を目指して行われた事業は以下のものである。実施はいずれも河川管理者である淀川河川事務所により行われた。

名称	対象	竣工(期間)	水域(事業)の特徴
1 ワンド干しあげ	31号ワンド	2006年 11月～12月	電動ポンプによりワンドの水を本川へ排水することによりワンドを干しあげ、約1月間池干しした。捕獲した外来魚は駆除し、在来魚は池干し期間中蓄養し、池干し終了後戻した。終了後、ワンドの外周部、中央部に砂を入れ浅くした。
2 ワンド再生	34北, 35北ワンド	2008年 2月～3月	2001年6月に新設した浅いワンドが外来植生の侵入・繁茂により魚類の生息場として不適となったので侵入植生の除去、底泥浚渫、既存ワンドとの接続部の改良を行った。工事期間中はワンドは干出した。
3 流水創造実験	34, 35, 36, 37号ワンド	2008年 4月～6月	37号ワンドに置いた電動ポンプによる排水により、34号から37号ワンドの水位を低下させ、ワンド内に流れを導き、外来魚の嫌う1970年代のワンドの再現を図った。
4 浅水型ワンドの造成	赤川4号, 赤川5号	2009年4月 2010年3月	34北ワンドに倣い、外来魚が生息しにくく、コイ科の在来魚が産卵するような浅いワンドとし、それに接続するサテライトを設けた。さらに、城北31号ワンドに倣い中央部に浅水域を設けた。外来植生の侵入を防ぐため、ワンド周囲を急勾配で深くしたり、ワンド底の一部を植生防止シートやコンクリートで覆った

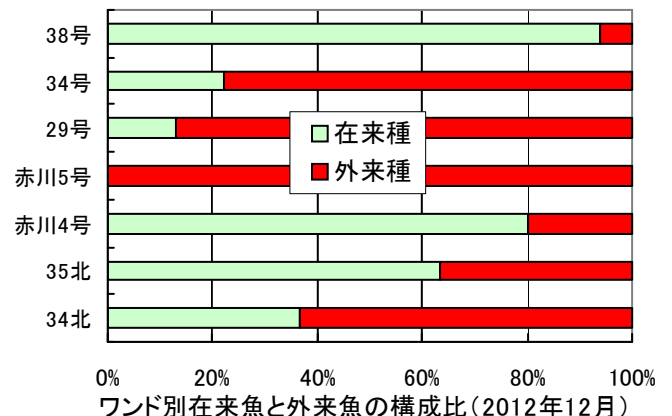
**外来魚の駆除：**城北ワンド群では 2006 年 5 月から淀川河川事務所により 29 号ワンドで外来魚駆除法の実験が始まり、2009 年 3 月まで行われた。また、同年 5 月より外来魚駆除釣り大会が毎年催されるようになった。さらに、2010 年 10 月から 2012 年 3 月まで、水生生物センターにより 34 号～37 号ワンドで組織的・継続的な外来魚駆除が行われた。著者らが収集した 2012 年城北ワンド群で行われた外来種駆除とその結果の概要は下表のようである。

名称	対象範囲	期間	成果概要(個体数)		主催
			バス	ギル	
1 外来魚駆除釣り大会	ワンド群全域	5月13日	30	1140	城北水辺クラブ・琵琶湖を戻す会・近畿環境事務所
2 外来魚駆除釣り大会	ワンド群全域	10月20日	97	617	淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク
3 アイコゴによる駆除	34, 35, 36号ワンド	6月12日～10月30日(40回)	249	3855	淀川河川事務所
4 地引網による駆除	34, 35, 36, 37号	4月15日～11月18日(14回)	2687	1587	淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク
5 トラップ等による駆除	29号ワンド	3月22日～7月25日(12回)	189	63	大阪工業大学水圏環境研究室(城北水辺クラブ)

**結果：**在来種は左図では 34-37 号ワンドで 18 種、30%程度、右図では 12 種、40-80%に回復している。



34,35,36,37ワンド地引網捕獲結果(イタセンネット)



ワンド別在来魚と外来魚の構成比(2012年12月)